

平成31年度使用

中学校「特別の教科 道徳」  
教科用図書 調査研究報告

平成30年7月

小田原市教科用図書採択検討部会

【中学校道徳】

	発行者の略号	東京書籍	学校図書
	書名	新しい道徳	輝け 未来 中学校道徳
(1) 教科・種目に共通な観点	(1) ①編集の趣旨と工夫	・適切である。	・適切である。
	(1) ②学習指導要領との関連	・教材冒頭にどのようなことについて考えるのか(テーマ)が設けられており、ねらいがぶれない。 ・「言語活動の充実」において、各学年巻頭に、生徒が自ら話し合い活動を行えるよう「話し合いの手引き」がある。	・教材冒頭に価値項目とテーマが書かれており、ねらいがぶれない。 ・総説(ウ)の「人物から生き方や人生訓を学んだり」において、各学年実際の人物のエピソードを取り上げている。 ・重点化を図る項目については、2教材ずつ用意されている。
	(1) ③内容	・巻頭に1年間で学ぶことが項目ごとにまとまっている。 ・巻末に「自分の学びを振り返ろう」のページがある(学期ごと)。 ・漫画を使用した導入や、役割演技など、様々な学習方法の工夫がされている。 ・現代的な課題への取り組みとして、情報モラル、とくにLINE等のSNSへの書き込みなどによるトラブルについて考えられる。 ・震災にかかわる教材が掲載されている。 ・切り取り式の自己評価用紙が学期ごとにあるので、生徒が成長を実感しやすく、また教員が評価しやすいよう工夫されている。 ・1教材あたりの分量が少なめで、考え、議論する時間を確保できるようになっている。	・学年末に、1年間を振り返るページを設け、学習を振り返り、これからの自分が見つめられるよう設定されている。 ・1年間を3期分に分割し、それぞれの教材の学習の記録や自分自身の振り返りができるよう工夫されている。 ・「心の扉」というページでは、生徒が、道徳的価値について自分のこととして捉えることができる。 ・教材の最後に、「学びに向かうために」があり、個人で考え、意見交換することで、学びを深めることができる。 ・現代的な課題への取り組みとして、情報モラル、とくにLINE等のSNSへの書き込みなどによるトラブルについて考えられる。 ・日本文化の伝承の題材が掲載されている。 ・震災にかかわる教材が掲載されている。 ・部活動や合唱コンクールなどの学校行事と関連づけ、重点項目がバランスよく学べるように配慮されている。
	※いじめ、生命尊重について	・いじめ問題対応教材、いのち尊重の題材が各学年3時間ずつ配置されている。読み物資料に加え、挿絵や漫画を用いることで多面的・多角的に考えることができる。	・いじめを許さない直接教材と、いじめを起こさない間接教材が全ての学年で用意されており、いじめを防止する心をはぐくむことができる。 ・学校生活の身近な場面からいじめについて考えられる。 ・命の尊さを学ぶ教材が多く掲載されている。
	(1) ④構成・分量・装丁	・判型はAB版。各学年30教材(35時間扱い)＋「付録」5教材。色覚特性に対応したデザイン、再生紙、植物油インキの使用、ユニバーサルデザインの書体。	・判型はAB版。各学年35教材。植物油インキの使用、ユニバーサルデザインの色使いや書体、レイアウト。 ・学期ごとに必ず4つの視点の学習が試されるよう工夫されている。
	(1) ⑤表記・表現	・適切である。 ・各教材の冒頭に各教科との関連が表記されている。	・適切である。 ・目次には、深く考えるべき現代的課題などを、10のポイントマークで示している。
(2) 道徳に係る観点	(2) ①「考え、議論する道徳」	・教材についての発問→テーマに関わる発問をすべての教材で設定している。	・考え、議論する活動を組み合わせて、「問題解決的な学習」「体験的な活動」を発問の中に取り入れ、多様な学習が展開できる。
	(2) ②多面的・多角的に考える	・話し合いや思考の質を高める、心情円やホワイトボード用紙が用意されている。 ・「つぶやきコーナー」が設置され、ポートフォリオとして学期や学年単位で学習を振り返ることができる。	・すべての教材に、意見交流が設定されており、多面的・多角的な思考・判断・表現の場を設けている。
	(2) ③問題解決的、体験的な学習	・各学年で1か所、2時間扱いで問題解決的な学習に対応した教材を掲載している。 ・グループエンカウンターやモラルスキルトレーニングを配置し、体験的な学習ができるようになっている。	・「自分ならどうするか」ということを考える、自我関与型の教材が多い。

	発行者の略号	教育出版	光村図書
	書名	中学校道徳 とびだそう未来へ	中学校道徳 きみがいちばんひかるとき
(1) 教科・種目に共通な観点	(1) ①編集の趣旨と工夫	・適切である。	・適切である。
	(1) ②学習指導要領との関連	・各教材に、導入として「教材を通してどんなことを考えていくか」を生徒に意識させる発問が設定されている。 ・学期ごとの振り返り、1時間毎の自己評価を記録できるワークシートを活用し、ポートフォリオ評価に活用できる。 ・すべての教材に、「教材理解につながる問い」「自分自身に引き付けて考える問い」「道徳的諸価値の理解を深める問い」が設定されている。	・教材冒頭に価値項目が書かれており、見通しを持った学習ができる。 ・重点化されている「自他の生命を尊重する心を育成する」について、各学年3つずつ教材があり、内容も実話が多い。
	(1) ③内容	・現代的な課題への取り組みとして、情報モラル、とくにLINE等のSNSへの書き込みなどによるトラブルについて考えられる。 ・二宮尊徳の言葉が掲載されている。 ・歴史や文化、スポーツなど様々な分野で活躍した人々が紹介されている。 ・巻末では、道徳の学びを記録するページがあり、将来の姿について希望や意欲を持って考えられるようになっている。 ・震災にかかわる教材が掲載されている。	・1年間を、4つの大きなまとまり(シーズン)に分けている。また、シーズンごとに学びのテーマや、ユニットごとのテーマがわかるように目次に明記されている。 ・教材の最後に、「学びのテーマ」というページがあり、ワークシートとして活用できる。 ・スポーツ選手や、歌詞、建造物など、他教科とつながる教材が掲載されている。 ・現代的な課題にかかわるコラムが掲載されている。 ・震災にかかわる教材が掲載されている。 ・「学びの記録」が巻末に位置付けられ、内容項目ごとに長期的に生徒の成長が評価できるようになっている。
	※いじめ、生命尊重について	・いじめに関する教材や、生命尊重の教材が特定時期に集中しないようにバランスよく配置されている。	・各学年に配置されたいじめ問題の解決に結びつく教材は、いずれも学年の前半に配当され、学級づくり、友達との関係づくりに生かされる。 ・いじめを直接的・間接的に扱った教材を配置、またコラムでいじめ防止につながる知識やスキルを紹介し、いじめ防止ユニットを複数設けている。
	(1) ④構成・分量・装丁	・判型はB5版。各学年35教材。再生紙、植物油インキの使用、ユニバーサルデザインの色や書体。 ・コラムなどが少なく、学習内容を焦点化している。 ・小学校とのギャップを解消するため、1年前半部の教材では、文字が大きくなっている。 ・学習学期と教材内容の季節が一致されており、学びやすい工夫されている。 ・各教材が4つの色で分類され、学習の視点を明示している。	判型はB5版。各学年34教材+補助教材2教材。植物油インキの使用、ユニバーサルデザインの色使いや書体。
(1) ⑤表記・表現	・適切である。	・適切である。	
(2) 道徳に係る観点	(2) ①「考え、議論する道徳」	・教材を通した「問い」が冒頭に掲載されている。	・書く活動、話す・聞く活動を重視した教材が収録されており、生徒の興味関心を引き出し、意欲を刺激するよう工夫されている。
	(2) ②多面的・多角的に考える	・答えが1つではない課題や、解決が難しい課題に向き合う機会が設定されている。	・教材末の「学びのテーマ」では、「見方を変えて」が設けられており、多面的・多角的な見方ができるよう工夫されている。
	(2) ③問題解決的、体験的な学習	・各学年で「やってみよう」という、ロールプレイや日常活動を想起して話し合う活動が取り入れられている。 ・問題解決的な学習に適した教材が各学年5つずつ、また、体験的な学習に適したユニット教材が各学年2つずつ設定されている。	・教材末には考える観点が設けられており、学んだことを自分に引き付けて考えたり、問題を解決したりするために「話し合う」ことを意図した発問が置かれており、主体的で対話的な活動ができる。 ・体験的な学習として「人と人との関係づくり」のページがあり、1年次は「友達と良い関係を築く」、2年次は「大人と接する」、3年次は「自分も相手も大切にすると、学年ごとに合った内容になっている。

	発行者の略号	日本文教出版	学研教育みらい
	書名	中学道徳 あすを生きる	中学生の道徳 明日への扉
(1) 教科・種目に共通な観点	(1) ①編集の趣旨と工夫	・適切である。	・適切である。
	(1) ②学習指導要領との関連	・教材冒頭にテーマが書かれており、ねらいがぶれない。 ・行事が多い時期にはかかわりの深い教材を配置している。 ・「道徳科での学び方」ではペアトークやグループトークの学習形態が示唆されているところから、対話的・協同的な学びをすることができる。	・教科書に価値項目やテーマを表示しないことで、特定の価値観を押し付けることなく、主体的・対話的な授業展開ができるよう工夫されている。 ・総説(ウ)の「人物から生き方や人生訓を学んだり」において、各学年実際の人物のエピソードを取り上げている。 ・1つの教材につき設定されている問いは1つで、生徒自ら主体的に課題を発見・解決する力を養うことを重視している。
	(1) ③内容	・巻頭に、道徳科で学ぶこと、道徳科での学び方がわかりやすくまとめられている。 ・一部の教材に、「私の生き方」として、著者のメッセージが掲載されている。 ・前の教材の内容が、より深まるようなコラムが掲載されている。(プラットフォーム) ・二宮尊徳の言葉が掲載されている。 ・震災にかかわる教材が掲載されている。 ・別冊ノートで自らの成長を実感し、「自分に+1」で学んだことを前向きに自分に生かし、主体的に道徳性をはぐくめるようになっている。	・巻頭に自分を見つめるページ、巻末に学びを振り返るページがある。 ・震災にかかわる教材が掲載されている。 ・様々な分野で活躍する人達の教材が掲載されている。 ・「クローズアップ」では、真鶴町の魚付き保安林について掲載されており、郷土愛につながる教材がある。 ・各学年で「自己肯定感」「アンガーマネジメント」「メンタルトレーニング」について取り上げ、悩みや葛藤などの心の揺れ、人間関係の理解など、深く考えられるよう工夫されている。
	※いじめ、生命尊重について	・新年度(5・6月)、夏季休業明け(9月ごろ)、冬季休業明け(1・2月)など、いじめが起きやすいとされている時期に合わせて、いじめ防止の教材を配置している。	・生命尊重にいじめ防止につながる3つのテーマ、「自己肯定感」「アンガーマネジメント」「メンタルトレーニング」を扱った「クローズアッププラス」が掲載されている。 ・いじめ問題に対し、直接的・間接的にアプローチできる教材が各学年4つずつ掲載されている。
	(1) ④構成・分量・装丁	・判型はB5版。各学年35教材。再生紙、植物油インキの使用、ユニバーサルデザインの色使いや書体。 ・「道徳ノート」がある。	・判型はA4版。各学年35教材。植物油インキ、PURのりの使用、ユニバーサルデザインの色使いや書体。 ・すべての教材が見開きから展開している。
	(1) ⑤表記・表現	・適切である。	・適切である。
(2) 道徳に係る観点	(2) ①「考え、議論する道徳」	・議論する際の方向付けになる「学習の進め方」が各学年で数か所設けられている。 ・各教材、作者や登場人物の紹介が冒頭にあるため、内容把握を助け、議論する時間を確保している。	・話し合いや記述など、言語活動が積極的に取り入れられている。
	(2) ②多面的・多角的に考える	・別冊ノートには、話し合いの際に、友達の意見などをメモする欄が設けられており、多面的・多角的な学習ができる。	・教材ごとに「クローズアップ(プラス)」を設け、関連情報を多数掲載している。 ・異なる複数の意見や関連情報を提示することにより、物事を多面的・多角的に考え、議論できるよう工夫されている。
	(2) ③問題解決的、体験的な学習	・問題把握→個で考える→集団検討→まとめ という問題解決のステップがある。 ・問題解決的・体験的な学習のページが要所で用いられている。	・特設ページ「深めよう」「クローズアップ」「クローズアッププラス」では、役割演技などを通して、体験的な学習ができる。

	発行者の略号	廣済堂あかつき	日本教科書
	書名	中学生の道徳 自分を見つめる／自分を考える／自分をのばす	道徳 中学校 生き方から学ぶ／生き方を見つめる／生き方を創造する
(1) 教科・種目に共通な観点	(1) ①編集の趣旨と工夫	・適切である。	・適切である。
	(1) ②学習指導要領との関連	・教材の冒頭に価値項目やテーマは明記しておらず、別冊ノートにテーマが記載されている。 ・すべての教材に、先人や著名人、魅力ある人物の言葉を掲載し、道徳的諸価値についての理解を深めることができる。 ・別冊ノートに書くことによって深く自己を見つめ、振り返ることができるので、言語活動の充実が工夫されている。	・教材は、学習指導要領の内容項目順に配置されており、教科書の順番に縛られることなく、自由に教材を活用できる。 ・教科書に価値項目やテーマを表示しないことで、特定の価値観を押し付けることなく、主体的・対話的な授業展開ができるよう工夫されている。
	(1) ③内容	・震災にかかわる教材が掲載されている。 ・様々な分野で活躍する人達の教材が掲載されている。 ・前の教材に関する内容で、より教材のテーマについて考えられる「thinking」というページが、各学年3箇所ずつ設けられている。 ・巻末にインターネットや、SNSなど、情報機器、情報モラルについて考えられるページが収録されている。 ・本冊と別冊の二分冊構成になっており、別冊には、本冊の教材内容が深まるような解説や、詩や表、グラフなどが掲載されている。 ・3年間を通した「シリーズ教材」が掲載されており、自分の成長が実感できる。 ・役割演技や動作化、追体験など、体験的な学習を促す教材を多数掲載。	・LGBTの問題を取り上げるなど、生き方は自由という考え、道徳的価値観の形成を図ることができる。 ・「こんなときどうしたらいいの？」という教材では、障害者差別解消法について学び、インクルーシブ教育につなげることができる。 ・震災にかかわる教材が掲載されている。 ・巻末に、1年間の心の成長や道徳の時間を振り返るページがある。 ・3年間を通した「シリーズ教材」が掲載されており、自分の成長が実感できる。 ・現場の教師たちが執筆した教材が多数あり、生徒が興味、関心を持って向き合うことができる。
	※いじめ、生命尊重について	・いじめ防止、生命尊重の教材が数多く掲載されている。 ・いじめ防止につながる教材やコラムが各学年5つずつ配置されており、様々な角度からいじめについて考え防止させる工夫がされている。	・「正義」「寛容」「人権」「人間愛」など、様々な教材の主題でいじめを許さない心の育成を目指している。
	(1) ④構成・分量・装丁	・判型はAB版。各学年35教材。再生紙、植物油インキの使用、ユニバーサルデザインの色使いや書体。 ・別冊ノートが再生紙で書きやすい。 ・1つの内容項目（重点項目）につき、9時間（3学年×3時間）を配置し、3年間を通してより深い学びができる。	判型はAB版。各学年37教材。装丁等に関しては不明。（記載なし）
(1) ⑤表記・表現	・適切である。	・適切である。	
(2) 道徳に係る観点	(2) ①「考え、議論する道徳」	・全教材に「考える・話し合う」を設置し、個人で考え、他者と意見交換することで、生徒の主体的・対話的で深い学びを促す工夫がされている。	・教材に関する発問と、自分自身に置き換える発問がそれぞれ設定されており、「考え、議論する道徳」につながる。 ・自然と生徒が考え出す仕掛けが教材に工夫されていたり、生徒の思考を揺さぶる問いが設定されていたりと、考え、議論する道徳授業展開が期待される。
	(2) ②多面的・多角的に考える	・すべての教材に「学習の手がかり」「考えを広げる・深める」が設けられており、異なる視点から考えられるようになっている。	・身近な事例において、家族・友達・学校や社会といった様々な視点から考えを深めることができるよう、工夫されている。
	(2) ③問題解決的、体験的な学習	・問題解決的な学習を促す教材を数多く掲載している。	・「自分ならどうするか」ということを考える箇所がある。